

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年3月9日（月）

2 確認箇所

- ・遠隔操作室（図1）
- ・瓦礫類一時保管エリアD（図1）

3 確認項目

- （1）3号機PCV内部気中部調査の状況
- （2）瓦礫類一時保管エリアDにおける廃棄物の保管状況

4 確認結果の概要

（1）3号機PCV内部気中部調査の状況

東京電力では、本格的な燃料デブリ取り出しに向けて、原子炉格納容器（PCV）内部の調査を実施している。

3号機については、平成29年に水中遊泳式遠隔調査装置（水中ROV）を用いて、原子炉圧力容器下部等の調査を実施した。

今月5日からは、マイクロドローン^{※1}を用いて前回の調査範囲を拡大し、貫通孔^{※2}の状態やペDESTAL（原子炉圧力容器を支える構造物）内部の状態等を確認する「PCV内部気中部調査」を実施している。

PCV内部気中部調査は、計11日間にわたり、計21回のマイクロドローン飛行により実施する予定である。

本日は、4日目のPCV内部気中部調査が実施されることから、その状況を遠隔操作室において確認した。

- ・PCV内部気中部調査の着手前に、東京電力社員及び協力企業担当者が合同でミーティングを行い、当日の調査内容、手順及び注意事項等を確認していた。
- ・マイクロドローンを原子炉格納容器（PCV）内に挿入するにあたり、遠隔操作室でマイクロドローン挿入装置を操作する者と、原子炉建屋内でマイクロドローンを挿入装置にセットする者が、無線で連絡を取り合いながら、手順を一つ一つ確認し、慎重に作業を進めていた。
- ・当日は2基のマイクロドローンを用いて調査が行われ、1基目がペDESTAL入口の状態等を、2基目がX-6貫通孔の状態等を確認した。マイクロドローンは予定していたルートを飛行し、調査はトラブルなく順調に進められた。
- ・PCV内部気中部調査にあたり、原子炉圧力容器への注水が一時的に停止されたが、原子炉圧力容器の温度及び圧力等に異常は認められなかった。

- ※1 寸法が130 mm×120 mm×40 mm、重量95 gのドローン。空中を約10分間飛行しながら、搭載したカメラにより映像を撮影することができる。
- ※2 原子炉格納容器内部に通じる貫通孔。本来は、ケーブルの貫通や資機材の搬出入を目的として設けられているが、燃料デブリ取り出し時のアクセスルートとする計画がある。大小様々な貫通孔があり、例えば、X-53貫通孔（約φ14 cm）、X-6貫通孔（約φ55 cm）等がある。

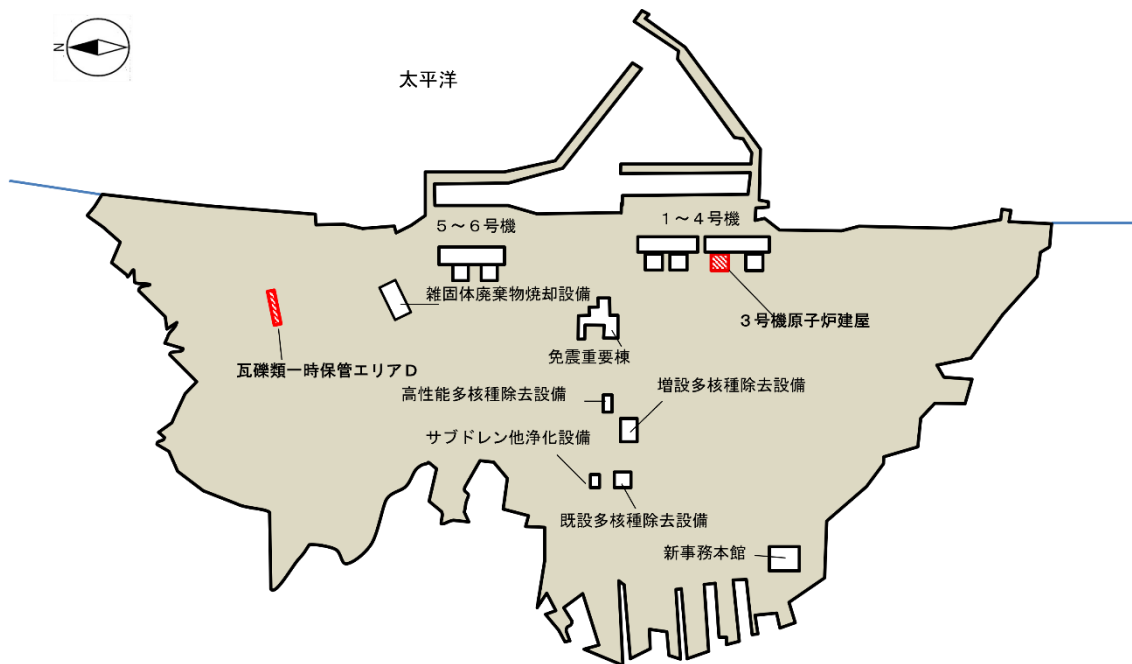
(2) 瓦礫類一時保管エリアDにおける廃棄物の保管状況

東京電力では、中長期ロードマップの目標工程である「2028年度内までに、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外での保管を解消」を達成するため、屋外で一時保管されている瓦礫類等の固体廃棄物を屋内保管へ移行し、屋外一時保管エリアの解消作業を進めている。

瓦礫類一時保管エリアにおいては、過去に、放射性物質が付着した瓦礫類の一部が保管用コンテナ外へ漏えいする事象が発生していることから、県では瓦礫類の保管状況を適宜確認している。

今回は、耐候性のあるシート（以下「養生シート」という。）による養生の対象となっている瓦礫類一時保管エリアD（以下「エリアD」という。）における廃棄物の保管管理状況について確認を行った。（前回確認：[令和7年2月12日](#)）

- ・エリアDは、単管ガードパイプ、ロープ及び金属フェンスにより区画されていた。（写真1）
- ・入口には、「関係者以外立入禁止」の表示や、エリア内の空間放射線量の測定結果等が掲示されていた。（写真2）
- ・養生シートに損傷はなく、瓦礫類の飛散・流出等の異常も認められなかった。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
エリアDの外観
※エリアDは、廃棄物を保管するための蛇腹ハウスに隣接している



(写真2)
エリアDの入口付近の状況



(写真3)
瓦礫類の保管状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。